

星のたより

2020年
9月号
Vol. 312

☆今月の一言☆
かっこうの夏休みが短くなって、こどもたちは物足りなかったかな？
「9月」と聞くと「秋」のイメージがあるけど、星空の方はまだまだ夏の星がよく見えるよ。「夏の**大三角**」はもちろん、「**天の川**」もよく見えるから、星空を楽しんでね。



ナゾときラリーにも挑戦しよう

新型コロナウイルス感染拡大防止のお願い

ご協力を
お願いします

さじアストロパークをご利用の際は、以下の項目にご理解の上ご利用いただきますよう、よろしくお願いいたします。開館状況などの最新の情報は、さじアストロパーク公式ホームページ等でご確認ください。

- ◎風邪症状のある方の利用は控えてください。
- ◎入館時、受付で体温の測定をさせていただきます。37.5℃以上の方は、ご利用をお断りすることがありますのでご了承ください。
- ◎館内展示の見学は、お客様同士の間隔を十分に開けて、密集状態とならないよう配慮してください。
- ◎利用者の皆様は、必要に応じマスクの着用や備付の消毒液の手洗いにより、感染拡大防止に努めてください。

秋の連休特別企画「宙(そら)の駅 宇宙☆散歩パートII」

9月19日(土)～22日(火祝)は、宙(そら)の駅 宇宙☆散歩パートII」で楽しみましょう。昼は工作体験やナゾときクイズラリー、プラネタリウムなど、夜は星空観察といったいろいろな体験メニューをおこないます。夏から見ごろを迎えている木星、土星に加え、ちょうど月明かりがない頃ですので、天の川を見るチャンスです。宙(そら)の駅・さじアストロパークで、満天の星を楽しみましょう。

イベント★耳より情報

☆新型コロナウイルスの影響で変更となる場合があります。
公式ホームページで最新情報をご確認ください

- ☆期間展示☆ 「本田実展」6月17日(水)～9月13日(日)
鳥取県出身で彗星・新星発見で世界的に有名だった本田実氏の業績を紹介します。
この展示は、鳥取県「星空を活用した星空保全地域振興事業補助金」を活用しておこなっています
「ハッブル望遠鏡が見た宇宙展」9月16日(水)～12月11日(金)



ハッブル宇宙望遠鏡 (NASA)

- ☆プラネタリウム☆ 第1部 専門職員によるライブトーク
第2部 オリジナル番組「星と出会う日々～本田実物語～」9月13日まで
オリジナル番組「ハッブルが見た宇宙」9月16日投影開始



☆天体観望会☆ ☆9月のテーマとおすすめ情報

たて座の星団 M11	4(金)・5(土)
満天の星と球状星団 M13	11(金)・12(土)
木星・土星	18(金)～21(月祝)
おりひめ星	25(金)・26(土)
観望会で満天の星が楽しめる	5(土)・6(日)、8(火)～13(日)、16(水)～22(火)
観望会で月がよく見える	25(金)～27(日)、30(水)



- ☆9月 休館日 1(火)、7(月)、14(月)、15(火)、23(水)、24(木)、28(月)、29(火)

※イベントの詳細やその他の情報はさじアストロパークのホームページなどを参考にしてください。

プラネタリウム & 天体観察会

～「星取県」で昼も夜も星空満喫～

定員15名で実施中

1. プラネタリウム ☆平日3回、土日祝4回投影

さじアストロパークのプラネタリウムは、前半が専門職員による生解説、後半は、オリジナル番組「星と出会う日々 ～本田実物語～」を投影しています。

テーマ番組①・オリジナル番組「星と出会う日々～本田実物語～」9月13日まで投影中

☆4Kリマスタリング版

鳥取県出身で、世界的な天体発見者だった本田実さんの生涯を描いたプラネタリウム番組です。（さじアストロパーク・オリジナル作品を、4Kデジタル作品としてリメイクしました）

テーマ番組②・オリジナル番組「ハッブルが見た宇宙」

9月16日から投影

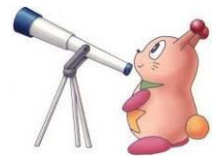
ハッブル宇宙望遠鏡が打ち上げられて、2020年で30年となりました。プラネタリウム番組でハッブル宇宙望遠鏡の30年の歴史を振り返りながら、これまでの成果や美しい宇宙の姿をご紹介します。



2. 103cm大型望遠鏡で天体観察会

定員15名、要予約で実施中

103cm大型望遠鏡を使った「天体観察会」は、現在、曜日に関係なく予約制でおこなっています。新型コロナウイルス感染防止対策として、①定員を15名 ②事前予約 ③マスク着用 ④緊急連絡先の提出 でおこないますので、ご了承ください。個人の方（お一人からご予約できます）は前日まで、団体の方は1カ月前までにご予約の上ご利用ください。



9月の注目天体情報

☆見ごろの星座

見ごろの星座は「いて座」と「やぎ座」です。いて座は明るい星が少なく目立たない星座ですが、2020年は木星と土星がいて座の方向にありますので、いて座を見つける目印になります。2021年にはやぎ座の方向に木星と土星が移動します。

☆木星と土星が引き続き見ごろです

私たちの太陽系で最大の惑星が木星、2番目が土星です。2つの巨大惑星が南の空で見ごろです。特に木星はマイナス2～3等級ですので、どの星座の星よりも明るく輝いています。

☆夏の天の川もまだまだ見ごろ

日没が早くなってきたので、星も早い時間帯から見られるようになりました。さそり座は南西の空低くなり見えにくくなりましたが、夏の大三角はまだまだ空高く見られます。9月になってもしばらくは見ごろが続きます。



火星が準大接近①

～ 火星が接近 ～

2年2ヶ月ぶりに火星が接近します。前回(2018年)よりも少し遠い準大接近ですが、10月、11月と火星の見ごろが続きます。今月号、来月号と2回にわたり火星を紹介します。

火星ってどんな星？

火星は地球のすぐ外側を回っている惑星です。大きさは地球の約半分(直径:6,792.4km)で、公転周期は約1年11ヶ月(687日)です。北極、南極にはドライアイスで出来た極冠があり、1万mを超える山、オリンポス山があります。昔は水や空気があり、生命が誕生していたのでは、とも言われています。現在、探査機キュリオシティが探査をおこなっています。2020年は火星に向けてアメリカ、中国などが探査機を打ち上げました。



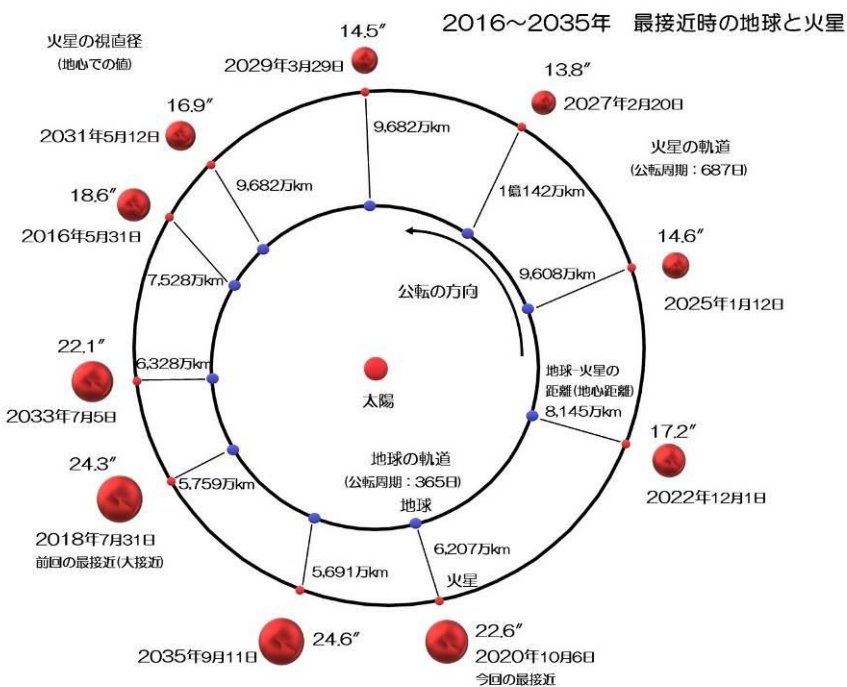
2つの衛星



火星には2つの衛星があります。「フォボス」と「ダイモス」です。この2つの衛星は、アメリカ海軍天文台のアサフ・ホールによって発見されました。非常に小さくいびつな形の衛星で、いちばん大きな所でもフォボスが27km、ダイモスが15kmしかありません。火星の表面からフォボスが約6000km、ダイモスが約2万kmのところを回っています。小惑星帯にあった小さな小惑星が、火星の引力により火星を回る衛星になったと考えられています。

今回は準大接近

～ 火星の接近はなぜ起こる？ ～



地球は1年、およそ365日かけて太陽のまわりをまわっています。火星は地球の外側を687日、約1年11ヶ月かけて、太陽のまわりをまわっています。

それぞれのペースで太陽のまわりをまわると、2年2ヶ月おきに地球と火星の接近が起こります(左の図、接近前後の数ヶ月間は見ごろが続きます)。そして、火星の通り道はゆがんでいるので、接近した時の距離が変わります。そのため、火星大接近が起きるのは、15～17年に1度しかありません。今回は、前回の大接近より少し

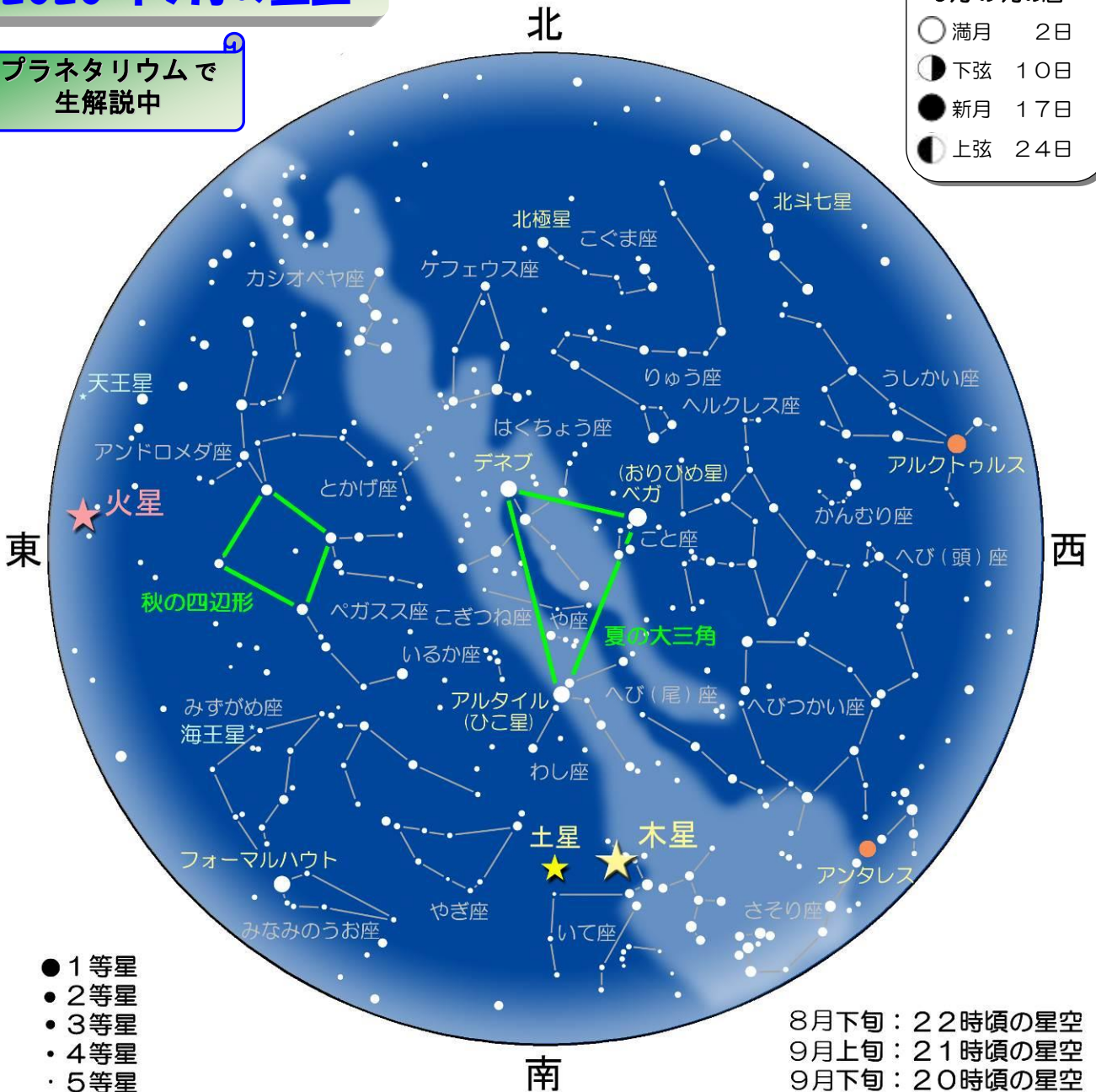
遠い準大接近です。ちなみに次回の火星大接近は2035年です。

2020年9月の星空

9月の月の暦

- 満月 2日
- ◐ 下弦 10日
- 新月 17日
- ◑ 上弦 24日

プラネタリウムで
生解説中



- ☆9月になると、昼間は暑くても夜になると涼しさを感じるようになります。特に中旬を過ぎてからは、夜になると半袖では寒いくらいです。服装に気を付けて星空を楽しみましょう。
- ☆星空の方は、まだまだ夏の星でいっぱいです。「夏の大三角」はちょうど頭の真上にあり、「ベガ」「アルタイル」「デネブ」の3つの1等星で三角を作ります。この辺りを「天の川」が通っています。月明かりがない頃には、雲のように見える帯を探してみましょう。
- ☆南の空、低いところにある2つの明るい星は、右が「木星」、左が「土星」です。8月よりも2つの惑星が少し近づいて見えます。望遠鏡を使うと、木星の縞模様や土星の輪を見ることができます。東の空には、最接近を控えた「火星」が昇ってきました。赤さがひととき目立っています。



さじアストロパーク

検索

プラネタリウムや観察会の時間、休館日、宿泊の予約など詳しい情報についてはホームページ&Facebookでチェック

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1
TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103
<http://blog.zige.jp/saji-astro/>
e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp